様式２　【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開（可・否）

区分	1.森づくり　2.森の恵み　3.森と技 4.森と暮らし　5.森の文化財　6.森の風景	
分野（ふりがな）	（分野） 蝋絞り	（ふりがな） ろうしぼり
地域独特の呼び方	―	―
タイトル	蝋絞り	
伝承地域	金山町山入（町内一円）	
由来	（いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで（いつまで）伝えられてきたか） 会津地方でいつごろから蝋絞りが行われたか不明である。文化 6 年（1809）の「新編会津風土記」によると、芦名氏が織田信長に蝋燭を献上したとあるので、戦国時代以前は、漆の実から蝋を絞っていたことがわかる。封建体制になると会津藩は漆蝋の生産を年貢とした専売制を取った。明治以降は衰退を辿り、昭和 37 年を最後に漆の実から蝋を絞る技術は廃絶。	
内容	（内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども） 会津地方では、漆の木の実から蝋を絞った(漆蝋)。蝋と漆は会津藩の財政を支える重要な産物であった。晩秋の農作業が終わり冬の準備が済むと、家族総出で木の実もぎを行う。もいだ漆の実は打ち棒などで打ち落とし、粒状にする。これを、実どうしや唐箕であおいでから、シチョウ（紙帳）と呼ばれる和紙で作った約２間半の蚊帳の中に二斗種と張り臼を入れて漆の実をつく。 荒づき、仕上げづき（種づき）と何回もつき、殻と蝋粉をつき分ける。ついた漆の実は蝋釜屋でふかして麻袋に詰め、胴と呼ばれる絞り舟で絞る。 絞った蝋は江戸時代にはそのまま年貢として上納されたが、明治以降は農民も蝋燭を製造する技術を習得し、各集落で蝋燭を製造するようになった。	
文化財等の指定状況	―	
問い合わせ先	金山町教育委員会　電話　０２４１－５４－５３３３	

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。(貼り付けずに、名前がわかるようい。)
	性別・年齢 生年月日	男　・　女　　歳 明治・大正・昭和・平成　　年　　月　　日　生	
	住所・電話	〒 電話	
	職　　業		

団体	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成　　年　　月　　日	
	問い合わせ先	電話	

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

製蝋小屋(会津民俗館)

蝋絞り用具一式(ドウ、カタ、ヤ、掛矢)

①実を落とす

②ウルシの実

③木の実を搗いて、種と殻と外皮と蝋粉に分ける

④蒸し上がった実を麻袋に入れる

⑤カタの間に麻袋を挟み、ヤを差し込み掛け矢で打ち込む

⑥掛け矢の打ち込みで、生蝋が流れ出る

（写真は、金山町教育委員会）